

## 2023年度

科目名称	家族看護論
授業コード	BK285
英語名称	Family Nursing
学期	2023年度後期
単位	1.0
担当教員	藤井 美穂子 (医療科学部), 大西 奈保子 (医療科学部), 板橋 直人 (医療科学部), 福井 郁子 (医療科学部)
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	家族の形態や家族のあり方は多様化していることに加え、家族を取り巻く保健医療福祉の状況は複雑化している。看護を学ぶうえで、家族看護学を基盤とした家族支援は、保健医療福祉における看護職だけでなく、多職種にも求められている。核家族化、少子化、高齢化、女性の就労などの現状から、家族看護においては、出産・育児および、心身の疾病・障がいをもつ人々の介護（養育）に関わる家族をいかに支えるかということが大きな課題となっている。本科目では、家族システム理論および家族ストレス対処理論を用い、個人や家族が自分らしく、よりよい健康を保持増進するために必要な看護について学ぶ。
科目に関連する実務経験と授業への活用	授業は、病院や施設等で看護師・助産師としての実務経験のある教員が担当する。
到達目標	<p>科目は、専門科目の「看護の発展」の一つである。カリキュラムポリシーに掲げる「看護学としての専門知識・技術を学び、論理的思考を修得する」に対応する科目である。ディプロマ・ポリシーの「地域で暮らす人々の多様な文化、生活背景、価値観を尊重し、個人・家族および地域の健康レベルに応じた地域包括ケアを実践する基礎的能力を有している」「対象者に最善の支援ができるように、保健・医療・福祉システムの中で、人々と協働する能力を有している」をめざし、以下に到達目標をあげる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.家族の概念について時代による変化をとらえ現代家族の諸問題について自分の考えを述べることができる。</li> <li>2.家族システム理論および家族ストレス対処理論を事例に基づき活用することができる。</li> <li>3.家族の発達段階と基本的発達課題に合わせた支援のあり方を理解することができる。</li> <li>4.地域で暮らす個人や家族が、自分らしくよりよい健康を保持増進するための看護のあり方について考察することができる。</li> </ol>
計画・内容	<p>第1回：家族とは、家族形態と家族のもつケア機能 担当教員：藤井（助産師）</p> <p>第2回：家族看護の理解：家族看護の定義、家族を理解するための諸理論 担当教員：藤井（助産師）</p> <p>第3回：家族看護の理解：家族看護過程の展開、代表的なアセスメントモデル 担当教員：藤井（助産師）</p> <p>第4回：新婚期（新しく家族が誕生するとき）の家族への看護 担当教員：藤井（助産師）</p> <p>第5回：養育期から教育期の家族への看護 自宅で暮らす障がいをもつ子どもを養育している家族への看護を中心に 担当教員：福井（看護師）</p> <p>第6回：分離期から成熟期の家族への看護 精神疾患をもつ人と生活をしている家族への看護を中心に 担当教員：板橋（看護師）</p> <p>第7回：成熟期から完結期 ターミナル期の家族員のいる家族への看護 担当教員：大西（看護師）</p>

## 2023年度

計画・内容	第8回：まとめ 担当教員：藤井（助産師）
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パワーポイントを活用し、テキストおよび配布資料にそって授業をすすめる。</li> <li>・適宜、学生と教員間でディスカッションを行なう。</li> <li>・課題を基にグループワークを行う場合もある。</li> <li>・授業終了後には、リフレクションペーパーの提出を求める。</li> </ul>
能動的な学びの実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生への質問も行うため、積極的な態度で授業に臨むことを期待している。</li> <li>・ドラマ・映画・マンガに出てくる家族、自身の家族から、家族とは何かを考えておく。</li> </ul>
授業時間外の学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習・復習として授業で学んだことをふまえ、テキストから課題を出す。</li> <li>・復習は、授業中、配布資料等にも書きとめたことをテキストを活用して確認し、ノートに整理する。（各回1時間程度）</li> </ul>
教科書・参考書	<p>教科書</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上別府圭子著：家族看護学 医学書院 2020</li> </ul> <p>参考書：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国民衛生の動向2022 - 2023</li> <li>・小林奈美著：グループワークで学ぶ家族看護論 第2版 医歯薬出版 2015</li> <li>・鈴木和子,渡辺裕子著：家族看護学 理論と実践 第4版 日本看護協会出版会 2017</li> <li>・渡辺裕子監修：家族看護を希望とした地域・在宅看護論 第5版 日本看護協会出版会 2021</li> </ul>
成績評価方法と基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題学修：リフレクションペーパー（10%）定期試験（90%）で評価する。</li> </ul>
課題等に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リフレクションペーパーの記載内容は次回の授業に反映させる。</li> <li>・学生からの質問については次回の授業でフィードバックする。</li> </ul>
オフィスアワー	Campus Squareを参照
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配布資料はファイリングし、整理して持参する。</li> </ul>
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	<p>授業の進め方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・zoomによる授業と課題学修を組み合わせで行う。</li> </ul> <p>成績評価方法と基準</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題学修：リフレクションペーパー（10%）定期試験（90%）で評価する。</li> <li>・定期試験は、formsにて行う。</li> </ul>